

一 土岐善麿著作年表 単行本

【一九一〇(明治四三年)】

四月 『NAKIWARAI』ローマ字ひろめ会

▼表紙は「TOKI AIKWA」名義

【一九一一年(明治四四年)】

三月二十五日 『Nusima, Saru to Kurage, Usagi to Wanji』

著作兼発行者・土岐善麿、日本のろーま字社

▼唱歌集 『Uta Toki-Aikwa, kyoku Ono-Umewaka』

と表記有

二月一日 『Mukashibanaji』著作兼発行者・土岐

善麿、日本のろーま字社

▼表紙に「TOKI-Aikwa kaku」とある

【一九二二(明治四五年)】

二月一日 『黄昏』東雲堂書店

【一九二二(大正一二年)】

七月一三日 『現代文芸叢書第二七編 不平なく』春

陽堂

十一月二十五日 『佇みて』東雲堂書店

【一九二五(大正四年)】

三月一日 『街上不平』東雲堂書店

五月五日 『万物の世界』土岐哀果著、植竹書院

▼現代和歌選集叢書第三篇 土岐哀果名歌選集

七月五日 『はつ恋』抒情詩社

▼表紙は土岐哀果名義

【一九二六(大正五年)】

九月五日 『雑音の中』東雲堂書店

【一九二七(大正六年)】

三月三日 『HYAKUNIN ISSYU』日本のローマ字社

▼表紙は「TOKI-Aikwa」名義

四月二〇日 『土岐哀果集』土岐哀果著、新潮社

【一九二八(大正七年)】

●一月 『緑の地平』紅玉堂

▼現物は確認できず。一九八三(昭和五八)年七月九

日『人物書誌大系五 土岐善麿』冷水茂太郎、日外

アソシエーツに記載有

十一月二日 『緑の地平』東雲堂書店

▼内表紙は土岐哀果名義

【一九二五(大正一四年)】

一月一日 『鶯の卵』アルス

四月一六日 『朝の散歩』アルス

一〇月二〇日 『空を仰ぐ』改造社

【一九二七(昭和二年)】

四月一日 『春帰る』人文会出版部

【一九一九(大正八年)】

『Orogital Nippon-no-Rōmazi-Sya』

【一九二八(昭和三年)】

三月二〇日 『歌集初夏作品』紅玉堂書店

▼新歌集叢書第二編

七月三〇日 『国字国語問題』日本ローマ字会

▼日本ローマ字会パンフレット第一冊

【一九二二(大正一二年)】

八月一日 『土岐哀果選集』アルス

【一九二四(大正一三年)】

六月二〇日 『歌集緑の斜直』紅玉堂書店

六月二〇日 『女子ローマ字読本一の巻』日本のロー

マ字社

▼表紙は『Dyosi Rōmazi Tokuhon』表記

【一九二九(昭和四年)】

四月三日 『改造文庫 第二部第六六篇 空を仰ぐ』

改造社

四月三日 『外遊心境』改造社

五月一日 『文芸の話 朝日堂談話座第八巻』東京大

阪朝日新聞社
一月七日 『袖子の種』 大坂屋分書店

【一九三二(昭和六年)】

一月一日 『ローマ字日本語の文献』 日本ローマ字会
▼日本ローマ字会パンフレット 第六冊
一月一〇日 『日本式になるまで』 NIPPONSHIKU ni
naru made! 著者兼発行者・土岐善麿、東京ローマ
字会

▼『ローマ字日本語の文献』別冊
四月一〇日 『やきりん』 白帝書房

【一九三三(昭和七年)】

四月五日 『改造文庫 第二部 第七二篇 養の卵』
改造社

四月一〇日 『啄木追懐』 改造社
七月二〇日 『文芸遊狂』 立命館出版部
一月二五日 『新曲隅田乃橋』 法木書店

【一九三三(昭和八年)】

八月二五日 『蜂塚縁起』 四條書房
九月一五日 『土岐善麿新歌集作品二』 改造社

【一九三四(昭和九年)】

四月二〇日 『晴天手記』 四條書房
一月二五日 『松の葉帖』 四條書房

【一九三五(昭和一〇年)】

一月二八日 『随筆 影を踏む』 四條書房

【一九三六(昭和一一)年】

四月一〇日 『明治大正芸術史』 新潮社
▼新潮文庫

【一九三七(昭和一二)年】

一月一〇日 『隨筆 紫煙身辺記』 書物展望社

【一九三八(昭和一三)年】

六月二五日 『満日抄』 人文書院
九月五日 『近詠』 アオイ書房
一月一八日 『天地自然』 日本評論社

四月二五日 『歌・ことば』 大塚時報社

四月二五日 『田安宗武』 日本評論社

八月一五日 『高青郎』 日本評論社

八月一五日 『歌集 周辺』 日本評論社

【一九三九(昭和一四)年】

一月二八日 『能楽拾遺』 謡曲界発行所

【一九四三(昭和一八)年】

五月二五日 『田安宗武 第二冊』 日本評論社

【一九四〇(昭和一五)年】

二月二〇日 『改造文庫 第二部 第四三三篇 啄木
追懐』 改造社

【一九四四(昭和一九)年】

一月二五日 『青少年日本文学 源実朝』 至文堂
六月二〇日 『能楽新米抄』 養徳社創立事務所

五月一八日 『斜面の憂鬱』 八雲書林

【一九四五(昭和二〇)年】

三月二〇日 『田安宗武 第三冊』 日本評論社
一月二〇日 『秋晴』 八雲書店

七月二五日 『田安宗武の「天降言」』 日本放送出版
協会

▼ラヂオ新書二〇

【一九四二(昭和一七)年】

四月八日 『能楽三断抄』 春秋社松柏館

【一九四六(昭和二一)年】

八月一〇日 『田安宗武 第四冊』 日本評論社
一〇月二五日 『夏草』 新興出版社

【一九四七(昭和二二〇)年】

五月三〇日 『ローマ字文の書き方』 朝日新聞社

七月二〇日 『ローマ字読本・春の巻 風車』 ローマ字教育会

九月二〇日 『啄木追憶』 新人社

九月二五日 『冬嵐 歌と随筆』 春秋社

一〇月一五日 『京極為兼』 西郊書房

二月二六日 『歌話』 一燈書房

【一九五〇(昭和二五)年】

八月五日 『鶯の卵』 春秋社

【一九五一(昭和二六)年】

四月二五日 『歌集 遠隣集』 長谷川書房

【一九四八(昭和二三)年】

二月一五日 『現代短歌文学選集 土岐善麿集』 新人社

社

三月一五日 『ひとりと世界』 日高書房

八月一〇日 『日本定本詩集四 黄昏に』 西郊書房

▼表紙は土岐真果名義。奥付に校者・土岐善麿と表記有

記有

九月二〇日 『歌集』 日本評論社

【一九五二(昭和二七)年】

六月一〇日 『<ボン>式 ATARASHI ROMAJI

Shen(小学校用)小国 533 東京書籍

▼奥付に、土岐善麿は著作者・監修者と表記有

六月一〇日 『<ボン>式 ATARASHI ROMAJI

Genen(小学校用)小国 532 東京書籍

▼奥付に、土岐善麿は著作者・監修者と表記有

【一九五四(昭和二九)年】

五月一〇日 『改訂 ATARASHI ROMAJI 4nen(小

学校用)小国』 東京書籍

【一九四九(昭和二四)年】

一月一五日 『春野』 八雲書店

【一九五六(昭和三一)年】

六月八日 『新版鶯の卵』 春秋社

十二月二五日 『万葉以後』 春秋社

▼奥付に土岐善麿は著作者・監修者と表記有

六月二五日 『Japanese No Plays』 日本交通公社

▼ TOURIST LIBRARY 16

【一九五五(昭和三〇)年】

四月二〇日 『河出文庫五三 明治大正藝術史』 河出

書房

五月一〇日 『改訂 ATARASHI ROMAJI 5nen(小

学校用)小国 533 東京書籍

▼奥付に土岐善麿は著作者・監修者と表記有

五月一〇日 『改訂 ATARASHI ROMAJI 6nen(小

学校用)小国 633 東京書籍

▼奥付に土岐善麿は著作者・監修者と表記有

六月二〇日 『撰取の熊面』 大法輪閣

八月一日 『早稲田沙』 長谷川書房

▼まひる野双書三

十一月一五日 『新訳杜甫詩選』 春秋社

【一九五七(昭和三二)年】

二月二五日 『斜面方丈記』 春秋社

三月一五日 『ことばについて』 財団法人郵政弘済会

▼奥付に、土岐善麿著、郵政省人事課編と併記されている。教養の書四五

三月二〇日 『土岐善麿 ことば随筆』 宝文館

四月二〇日 『鎌倉室町秀歌』 春秋社

十二月二五日 『新訳杜甫詩選第二』 春秋社

【一九五八(昭和三三)年】

二月五日 『歌集 歴史の中の生活者』 春秋社

【一九五九(昭和三四)年】

二月九日 『歌集 相聞抄』 春秋社

六月五日 『新訳杜甫詩選第三』 春秋社

二月三〇日 『ことば風土記』 光書房

【一九六四(昭和三九年)】

三月二〇日 『歌集 若菜抄』 東峰出版

【一九六〇(昭和三五)年】

二月一〇日 『歌集 額田抄』 初音書房

【一九六五(昭和四〇)年】

四月三〇日 『杜市門前記』 春秋社

【一九六一(昭和三六)年】

二月五日 『新訳杜甫詩選第四』 春秋社

【一九六六(昭和四一年)】

六月四日 『歌集 連山抄』 春秋社

【一九六二(昭和三七)年】

八月二〇日 『杜甫草堂記』 春秋社

【一九六七(昭和四二年)】

九月三〇日 『杜甫周辺記』 春秋社

九月一五日 『近代日本芸術史』 内田老鶴圃

一〇月三〇日 『歌と人』 応濟堂出版

【一九六三(昭和三八)年】

二月五日 『歌集 四月抄』 東峰出版

二月二五日 『歌集 東西抄』 初音書房

七月一〇日 『目前心後』 東峰出版

【一九六八(昭和四三年)】

六月八日 『新修京極為兼』 角川書店

一〇月一〇日 『訳注 為兼和哥抄』 初音書房

▼表題は『訳注 為兼卿和哥抄』となっている

【一九六九(昭和四四)年】

三月一日 『斜面迷禪記』 光風社書店

【一九七三(昭和四八)年】

六月八日 『斜面送春記』 光風社書店

七月二〇日 『杜甫への道』 光風社書店

【一九七〇(昭和四五)年】

三月二〇日 『新訳 杜甫』 光風社書店

【一九七五(昭和五〇)年】

五月二五日 『土岐善麿歌論歌話上巻』 木耳社

六月八日 『いのちありて』 大法輪閣

六月八日 『斜面周辺記』 光風社書店

【一九七一(昭和四六)年】

一月二五日 『上方抄』 短歌新聞社

六月八日 『土岐善麿歌論歌話下巻』 木耳社

一〇月二七日 『訳伝五十三次』 蝸牛社

二月二五日 『日本詩人選一五 京極為兼』 筑摩書房

【一九七六(昭和五一年)】

一月二五日 『春望』 蝸牛社

六月八日 『新作能縁起』 光風社書店

二月二〇日 『天の原ふりさけみれば』 蝸牛社

NAKIWARAI 特選名著復刻全集 近代文学館

▼一九一〇(明治四三)年四月の『NAKIWARAI』

ローマ字ひろめ会の復刻版

六月八日 『土岐善麿歌集』 光風社書店

十一月三日 『一念抄』 光風社書店

【一九七七(昭和五二年)】

三月二〇日 『斜面季節抄』 木耳社

四月 『むかし野十方抄』 蝸牛社

六月八日 『歌舞新曲選』 光風社書店
 六月八日 『近作白首墨韻』 蝸牛社
 七月八日 『斜面彼岸抄』 光風社書店

【一九七八(昭和五三年)】

六月八日 『斜面相問抄』 光風社書店
 ▼『新作能親覺前記』を収録

【一九七九(昭和五四)年】

六月八日 『土岐善麿歌集 第二 寿塔』 竹頭社

【一九八五(昭和六〇)年】

『鶯の卵 新訳中国詩選』 筑摩書房
 ▼筑摩叢書一九六

■ 共著・編纂・監修・翻訳等 ■

【一九一三(大正二)年】

五月二五日 『啄木遺稿』 石川一著、土岐善麿編、東雲堂書店

六月九日 『啄木歌集 一握の砂 悲しき玩具 合冊』

石川一著、土岐善麿編、東雲堂書店

六月一〇日 『隠道』 トルストイ著、土岐哀果訳、新陽堂

【一九一五(大正四)年】

一月二〇日 『作者別 万葉短歌全集』 土岐善麿編、東雲堂書店

【一九一八(大正七)年】

『啄木選集』 石川啄木著、土岐哀果編、新潮社

【一九一九(大正八)年】

四月二日 『啄木全集』 土岐哀果編、新潮社

七月一〇日 『啄木全集第二卷』 土岐哀果・與謝野寛

編、新潮社

taduru Nippon-no-Komaz-Sya

【一九二三(大正一二)年】

八月 『窪田空穂選集』 窪田空穂著、土岐善麿選、アルス

▼土岐生名義の序文有

【一九二〇(大正九)年】

四月二八日 『啄木全集三卷』 土岐哀果編、新潮社
 ▼編者による凡例有

【一九二二(大正一〇)年】

七月二八日 『ローマ字短篇小説集』 土岐善麿編、新潮社

▼表紙に [Roamazigaki tanpen-syosetsusyu] Toki-Zenmaro iuduru Saityo-sya ヌ表記

【一九二七(昭和一二)年】

二月一八日 『啄木隨筆集』 石川啄木著、土岐善麿編、人文会出版部

【一九三二(大正一二)年】

九月八日 『作者別 万葉全集』 土岐善麿編、アルス
 〇月一八日 [UNMEI] ツルゲーネフ著、著作兼発行者・土岐善麿、日本のローマ字社

【一九二八(昭和三)年】

六月二五日 『作者別 万葉全集(上巻)』 土岐善麿訳著、アルス
 六月二五日 『作者別 万葉全集(下巻)』 土岐善麿訳

[Barahime] Toki-Zenmaro anu N.R.S.

[Miri no ura] Whitman 著、Toki-Zenmaro

著、アルス

【一九三二(昭和六)年】

二月二〇日 『明治大正史第五卷 芸術篇』 土岐善麿
編、朝日新聞社

六月二二日 『改造文庫 第二部 第一〇一篇』 作者
別万葉全集』 土岐善麿編著、改造社

七月一八日 『改造文庫 第二部 第一〇二篇』 作者
別万葉以後』 土岐善麿編著、改造社

【一九三三(昭和七)年】

九月五日 『改造文庫 第二部 第八六篇』 国家八
論』 土岐善麿編、改造社

【一九三三(昭和八)年】

二月五日 『啄木のラジブ』 『石川啄木研究』 石川
正雄編、英浪書院

▼内表紙に「金田一京助・土岐善麿・石川正雄編」
と記載有

【一九三四(昭和九)年】

三月一日 『故田丸博士論文選集』 田丸直吉著、土岐
善麿編、日本のローマ字社

【一九三六(昭和一一)年】

九月一五日 『春陽堂文庫 一三七』 佇みて・黄昏に』
土岐真果訳、春陽堂書店

【一九四一(昭和一六)年】

一月二〇日 『現代短歌叢書 第六卷』 代表者・土岐
善麿、弘文堂書房

【一九四二(昭和一七)年】

七月一〇日 『六平太芸談』 喜多六平太著、春秋社松
柏館

▼「序」に後藤得三、土岐善麿、編纂の由あり

七月三二日 『近代詩歌の展開』 『国文学と国語教育』
著作者代表者・土岐善麿・吉田精一・田中保隆・西
原慶一、雄山閣

▼日本文学論大系 1号

【一九四三(昭和一八)年】

二月一日 『改造文庫 第二部 第一八六篇』 増訂
国家八論』 土岐善麿編、改造社

【一九四四(昭和一九)年】

二月二二日 『田安宗武歌集』 土岐善麿校訂、書物
展望社

【一九四八(昭和二三)年】

六月一五日 『ローマ字教育』 著者代表・土岐善麿、
非凡閣

▼表紙に「土岐善麿・鬼頭禮藏・平井昌夫著と記載
有。新国語教育選書(ローマ字篇)」

七月五日 『日本定本詩集三』 一握の砂・悲しき玩具』
石川啄木著、土岐善麿校訂、西郊書房

【一九五〇(昭和二五)年】

六月三〇日 『日本古典全書 一宗武・曙覽歌集二』 土
岐善麿校訂、朝日新聞社

一月二五日 『短歌名作読本』 窪田空穂・土岐善麿
監修、志摩書房

【一九五三(昭和二八)年】

五月三〇日 『万葉開卷第一歌』 『金田一博士古稀記念
言語・民俗論叢』 金田一博士古稀記念論文集刊行会
編、三省堂出版

▼編集委員の一人として土岐善麿も参加

【一九五四(昭和二九)年】

三月三二日 『旅人の酒歌について』 『窪田空穂先生
喜寿記念論集』 編集者代表者・土岐善麿、早稲田大
学国文学会

【一九五八(昭和三三)年】

二月五日 『明治短歌史』 近代短歌史・第一卷』 著

者代表・窪田空穂、春秋社

▼表紙は窪田空穂・土岐善麿・土屋文明編

四月二〇日 『大正短歌史』 近代短歌史・第二卷

著者代表・土岐善麿、春秋社

▼表紙は窪田空穂・土岐善麿・土屋文明編

七月二〇日 『昭和短歌史』 近代短歌史・第三卷

著者代表・土屋文明、春秋社

▼表紙は窪田空穂・土岐善麿・土屋文明編

【一九六〇(昭和三五)年】

二月五日 『謡曲の植物』 土岐善麿・佐藤達夫・佐

竹義輔監修、伊藤和洋著、井上書房

【一九六七(昭和四二)年】

六月二〇日 『回想の石川啄木』 岩城之徳編、金田一

京助・土岐善麿監修、八大書店

【一九六八(昭和四三)年】

三月一〇日 『NAKIWARAI』 『黄昏に』 『不平なく』

「竹みて」「街上不平」「雑音の中」「心遊はず」「緑

の地平」「緑の斜面」「空を仰ぐ」「初夏作品」「新歌

集作品」「『新歌集作品二』 近詠」「六月」「周辺」

「秋晴」「冬風」「夏草」「春野」「遠隣集」「早稲田

抄」「歴史の中の生活者」「相聞抄」「頼田抄」「四月

抄」「若葉抄」「連山抄」「南窓記(抄)」「日本詩人

全集六 若山牧水 窪田空穂 土岐善麿 前田夕

暮 著作者・若山牧水・窪田空穂・土岐善麿・前田

夕暮、新滿社

▼編者・木俣修・久保田正文、と併記されている

【一九六九(昭和四四)年】

二月 『雪嶺水瑾社詩抄』 光風社書店

▼和紙和装本一冊、研究種著。現物は確認でき

ず。一九八三(昭和五八)年七月九日『人物書誌

大系五 土岐善麿』冷水茂太編、日外アソシエ

ツに記載有

【一九七九(昭和五四)年】

二月八日 『昭和万葉集 卷六』 顧問・土屋文明・土

岐善麿・松村英一、講談社

一〇月二五日 『筑摩現代文学大系 別巻二 現代歌

集』 著者代表・土岐善麿、筑摩書房

【一九八三(昭和五八)年】

一〇月二五日 『近代作家研究叢書一』 石川啄木研

究 金田一京助・土岐善麿・石川正雄編、監修・吉

田精一、日本図書センター

【二〇〇〇(平成一二)年】

四月二五日 『明治大正史 V 芸術篇』 編著者・土岐

善麿、クレス出版

▼一九三二(昭和六)年二月二〇日の『明治大正史第

五巻 芸術篇』編著者・土岐善麿、朝日新聞社を

収録したもの

■全集・講座等へ収録されたもの■

【一九二六～一九二八(大正一五～昭和三)年】

『国字と国語問題』『アルス文化大講座第五卷』アルス

▼全一二巻だったものを、出版社による合本サービ

スにより五巻にまとめられているものを、国会図

書館にて確認。一巻～二巻までの、各巻の奥付

は掲載されており確認できるものの、当初何巻に

収録されていたのかは、合本前の現物未見のため

不明。

【一九二九(昭和四)年】

九月一八日 『昭和三年以後』『現代日本文学全集 第

三八篇』山本三生編、改造社

▼目次では土岐善麿と表記

【一九三〇(昭和五)年】

四月五日 『現代短歌全集第一〇巻』土岐善麿・石川

啄木著、改造社

▼該当巻が石川啄木集・土岐善麿集

【一九三二(昭和六)年】

- 七月一日「新聞と漢字制限」『総合ジャーナリズム 講座第十巻』編集兼発行人・橋本三郎、内外社
 一〇月一〇日「現代の短歌」『短歌講座 第一巻』編集兼発行人・山本三生、改造社

【一九三二(昭和七年)年】

- 三月二〇日「ローマ字日本語の文獻」『特殊研究 日本文学講座・第一五巻』編集兼発行人・佐藤義亮、新潮社

- 八月二一日「短歌機構論」『短歌講座 第四巻』編集兼発行人・山本三生、改造社

- 九月二三日「生活と芸術の思出」『短歌講座 第一二巻』編集兼発行人・山本三生、改造社

▼目次には「生活と芸術の思ひ出」と記載

- 一二月二日「万葉集鑑賞」『日本文学講座第一四巻』編集兼発行人・佐藤義亮、新潮社

【一九三三(昭和八)年】

- 七月一〇日「田安宗武」『万葉集講座 第四巻 史的研究篇』編集兼発行人・和田利彦、春陽堂

【一九三四(昭和九年)年】

- 六月一〇日「大正期の随筆紀行」『日本文学講座 第一三巻』編集代表者・山本三生、改造社
 一二月二一日「石川啄木——啄木と短歌表現——」『日本文学講座 第七巻』編集代表者・山本三生、改造社
 ▼目次には「石川啄木」と記載

【一九三八(昭和一三)年】

- 五月二〇日「新万葉集 第五巻」編集代表者・山本三生、改造社

▼作者別氏名五十音順の「た」の部に収録

【一九四〇(昭和一五)年】

- 九月一〇日「新作品抄」『現代短歌第四巻』著作者代表・岡野直七郎、河出書房

【一九四四(昭和一九)年】

- 一二月一〇日「能の詩趣」『能楽全書 第六巻』編集兼発行人・矢部良策、創元社

【一九四七(昭和二二)年】

- 八月五日「新涼」『現代歌集 第一巻』河出書房
 ▼表紙に土岐善麿・吉井勇・松村英一・鹿兒島寿藏・山口茂吉と記載有

【一九四八(昭和二三)年】

- 七月三〇日「短歌の鑑賞」『婦人文化講座第四巻』日本文学文化連盟代表・松本正雄著、ナウカ社

【一九五二(昭和二七)年】

- 一月一五日「近世の歌人」『日本文学講座 第四巻』著者代表・近藤忠義、河出書房

【一九五三(昭和二八年)年】

- 一月一五日「NAKIWARAI(全)」『黄昏に(抄)』

【一九五六(昭和三一)年】

- 七月一五日「国語政策をいきわたらせるには」『ことばの講座第二巻 これからの日本語』石黒修・泉井

久之助・金田一春彦・柴田武編、東京創元社

【一九五七(昭和三二年)】

九月二五日 「土岐善麿集」 「現代日本文学全集九〇」
現代短歌集 著者代表・佐々木信綱、筑摩書房

【一九六一(昭和三六年)】

七月三〇日 「黄昏に」 「現代名歌集全集四」 代表・窪田章一郎、東京創元社

▼目次は土岐哀果(善麿)と表記

【一九六八(昭和四三年)】

九月二五日 「NAKIWARAI」 「黄昏に」 「不平なく」 「はつ恋」 「明治文学全集六四」 明治歌人集 著者代表・服部躬治、筑摩書房

▼土岐哀果名義

【一九六九(昭和四四年)】

一月一五日 「黄昏に」 「不平なく」 「佇みて」 「街上

不平」 「雑音の中」 「緑の地平」 「緑の斜面」 「空を仰ぐ」 「初夏作品」 「作品一」 「作品二」 「近詠」 「六月」 「周辺」 「秋晴」 「夏草」 「冬風」 「春野」 「遠隣集」 「早稲田抄」 「歴史の中の生活者」 「相聞抄」 「額田抄」 「四月抄」 「若葉抄」 「連山抄」 「東西抄」 「日本の詩歌」 「釈道空 会津八一 窪田空穂 土岐善麿」 中央公論社

【一九七〇(昭和四五)年】

三月二〇日 「交遊記抄」 「明治文学全集五二」 石川啄木集 筑摩書房

六月二〇日 「初心」 について 「仏教文学研究第九集」 仏教文学研究会編、法蔵館

【一九七三(昭和四八年)】

四月三〇日 「歌壇警語抄」 「近代文学評論大系 第八卷 詩論・歌論・俳論」 安田保雄・本林勝夫・松井利彦編、角川書店

▼土岐哀果名義

【一九七六(昭和五一年)】

九月一〇日 「黄昏に」 「不平なく」 「佇みて」 「街上不平」 「雑音の中」 「緑の地平」 「緑の斜面」 「空を仰ぐ」 「初夏作品」 「作品一」 「作品二」 「近詠」 「六月」 「周辺」 「秋晴」 「夏草」 「冬風」 「春野」 「遠隣集」 「早稲田抄」 「歴史の中の生活者」 「相聞抄」 「額田抄」 「四月抄」 「若葉抄」 「連山抄」 「東西抄」 「公文庫 日本の詩歌」 「釈道空 会津八一 窪田空穂 土岐善麿」 中央公論社

【一九七九(昭和五四)年】

一月三〇日 「石川啄木全集 第八卷 啄木研究」 「石川啄木著、編集・金田一京助・土岐善麿・石川諭 児・小田切秀雄・岩城之徳、筑摩書房

三月二〇日 「黄昏に」 「不平なく」 「佇みて」 「街上不平」 「雑音の中」 「緑の地平」 「緑の斜面」 「空を仰ぐ」 「初夏作品」 「作品一」 「作品二」 「近詠」 「六月」 「周辺」 「秋晴」 「夏草」 「冬風」 「春野」 「遠隣集」 「早稲田抄」 「歴史の中の生活者」 「相聞抄」 「額

【一九七四(昭和四九年)】

二月三〇日 「不平なく 抄」 「街上不平 抄」 「日本現代詩大系 第四卷」 矢野峰人編、河出書房新社

▼土岐哀果名義

七月三〇日 「遠隣集(完本)」 「秋晴抄」 「夏草

(抄)」「冬風抄)」「春野抄)」「歴史の中の生活者抄)」「四月抄抄)」「現代短歌大系 第二巻」

大岡信・塚本邦雄・中井英夫編、三一書房

八月一五日 「NAKIWARAI」 「六月」 「現代日本文学

大系二八 若山牧水 太田水穂 窪田空穂 前田夕暮 土岐善麿 川田順 飯田蛇笏 水原秋櫻子 山口誓子 中村草田男 加藤楸邨 石田波郷集」 若山

口誓子 中村草田男 加藤楸邨 石田波郷集」 若山 牧水・太田水穂・窪田空穂・前田夕暮・土岐善麿・

川田順・飯田蛇笏・水原秋櫻子・山口誓子・中村草田男・加藤楸邨・石田波郷著、筑摩書房

九月二〇日 「黄昏に」 「日本近代文学大系 第五五巻

近代短歌集」 注釈者代表・新門進一、角川書店

▼武川忠一の注釈

田抄」「四月抄」「若葉抄」「連山抄」「東西抄」「日本
本の詩歌」一 釈道空 会津八一 窪田空穂 土岐
善麿」中央公論社

▼新訂版

【一九八〇(昭和五五)年】

七月二五日「黄昏に」現代短歌全集 第二巻 明治
四三年、大正二年」著者代表・松村英一、筑摩書房
▼土岐哀果名義
八月二五日「六月」現代短歌全集 第八巻 昭和
一二年、一五年」著者代表・橋本徳寿、筑摩書房

【一九八一(昭和五六)年】

二月二五日「遠隣集」現代短歌全集 第一巻」著
者代表・山田あき、筑摩書房
五月二五日「新歌集作品二」現代短歌全集 第七巻
昭和七年、一二年」著者代表・土屋文明、筑摩書房
八月二〇日「能の詩趣」綜合新訂版 能楽全書 第
六巻」編修者・野上豊一郎、東京創元社

▼解題付補注 西野春雄・松本維
一〇月二五日「憎として」其の他」近代日本文芸
読本 第二集」芥川龍之介編、日本図書センター

【一九九三(平成五)年】

五月二〇日「土岐哀果集」平凡社版完全復刻 新興
文学全集第一〇巻 日本 X」大島英二郎編、黒色
戦線社
▼一九二九(昭和四)年の「新興文学全集第一〇巻
日本篇 X」平凡社の復刻版

【一九九九(平成一一)年】

五月二八日「女」明治翻訳文学全集(新聞雑誌編)
四九 メーテルリンク集」川戸道昭・榎原貴教編、
大空社
▼土岐哀果訳、初出は「女子文壇」明治四一年と有

【二〇〇〇(平成一二)年】

四月二五日「愛」明治翻訳文学全集(新聞雑誌編)

四三 チェーホフ集Ⅱ」川戸道昭・榎原貴教編、大
空社

▼土岐哀果訳、初出は「創作」明治四四年と有

【二〇〇一(平成一三)年】

七月二〇日「黄昏に」現代短歌全集 第二巻 明治
四三年、大正二年」著者代表・松村英一、筑摩書房
▼土岐哀果名義、一九八〇年の増補版

一二月一〇日「新歌集作品一」現代短歌全集 第七
巻 昭和七年、一二年」著者代表・土屋文明、筑摩
書房

▼一九八一年の増補版

【二〇〇二(平成一四)年】

四月一〇日「遠隣集」現代短歌全集 第一巻 昭
和二五年、二七年」著者代表・山田あき、筑摩書房
▼一九八一年の増補版

【二〇〇三(平成一五)年】

六月一日「黄昏に」「不平なく」「佇みて」「街上不

平」「雑音の中」「緑の地平」「緑の斜面」「空を仰
ぐ」「初夏作品」「作品一」「作品二」近詠」「六月」
「周遊」「秋晴」「夏草」「冬嵐」「春野」「遠隣集」
「早稲田抄」「歴史の中の生活者」「相聞抄」「額田
抄」「四月抄」「若葉抄」「連山抄」「東西抄」「新装
日本の詩歌」一 釈道空 会津八一 窪田空穂 土
岐善麿」中央公論新社
▼オンデマンド版

【二〇〇四(平成一六)年】

四月三〇日「和歌文学大系七七 一握の砂・黄昏に」
収獲」木殿和史・藤澤全・山田吉郎著、明治書院
▼「黄昏に」(明治四五年二月、東雲堂書店)初版本
底本

六月二五日「新聞紙と漢字制限」綜合ジャーナリス
ム講座 第一〇巻」日本図書センター

▼一九三一(昭和六)年七月一五日「綜合ジャーナ
リズム講座 第一〇巻」編集兼発行人・橋本篤郎、
内外社を収録したもの

■ 月 報 ■

【一九三三(昭和八)年】

七月一〇日 「万葉集中予の最も好める歌」 「万葉集に
親しめる動機」 「月報 万葉集講座 第四号」 編集
発行兼印刷人・和田利彦、春陽堂

【一九五三(昭和二八)年】

一月 「自分を語る」 「現代短歌大系 月報 第六号第
一〇卷近代期(六)附録」 河出書房

【一九七〇(昭和四五)年】

七月 「謙を責め」る表現の過程」 「古典俳文学大系
月報三 芭蕉集付録」 集英社

(藤井真理子 作成)